

発行：2013年4月13日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャンティ山口 代表 角 直彦  
 連絡先事務局 〒753-0215 山口市大内矢田 717 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083  
 ホームページアドレス：<http://www.shanti-yamaguchi.com/>

## 平成 25 年度 「地球環境基金」 新規事業 助成金交付内定



平成 22 年度から 24 年度までの 3 年間実施してきた「焼き畑の大地を森林に」アグロフォレストリーと農村開発の実践の成果を滞ることなく継続して活用した、持続可能な農業への新たな取り組みと生活向上を目指した「地域住民が協働するプロジェクト」がスタートできることとなりました。

**活動名：タイ国・北タイ地域「トウモロコシ栽培で荒廃した農地を果樹林に」森林再生と農村開発**

### 活動の趣旨・目的

北タイ地域において近年、経済流通社会が支配する「GMO（遺伝子組み換え）トウモロコシ」の栽培により、先祖から引き継いだ焼き畑の農地の荒廃と、これに隣接する森林が広範囲にわたり伐採され、生きる糧や希望がもてない状況におかれ、貧困と生活苦に追われている壊滅寸前の山岳民族の村。荒廃した農地を地域にマッチした緑豊かな果樹林に転換し、持続可能な農業と併せて生活衛生改善・保健衛生と地域環境の学習・自然条件を活用した再生可能なエネルギーの確保等の農村開発を行い、生活の自立と持続可能で安定した豊かな生活の向上を目指すと共に、環境保全型農業と循環型社会形成のモデルとして地域に波及することを目的とする。

### 助成活動の概要

ホイプム村において住民全員協働参加で、平成 22 年度から着手した農村開発と森林再生計画事業の内、農村開発に係るバイオトイレの設置は完了し順調な稼働を続けている。計画に向かって必須の人材育成や基盤整備も終盤を迎え、村人の実践に基づく意見を反映した計画書策定も終えた。25 年度からの 3 年間は、これまでの成果の活用と実施過程での課題や新たな問題点も含めて基本計画書に基づき、次の事業を行う。1. 「GMO トウモロコシ」栽培を計画的に果樹に転換する。⇒持続可能で収入の安定・水源の甦り・農薬被害の解消・洪水の軽減・環境負荷の軽減。2. 農業センターの運営管理⇒リーダー育成・作物の試験育成栽培・果樹の増殖栽培・学習拠点活用。3. 保健衛生知識の普及と環境学習会及び農業研修会⇒セミナー・健康管理・農業知識の習得。4. 再生エネルギーの活用のための実践研究開発⇒バッテリー充電（風、水力）・メタンガスによる燃料、照明・バイオトイレ処理液による堆肥の製造・太陽熱温水器の効率化・ロケットストーブの多目的利用化。

### ○現状・問題点

1970年代からタイ政府の強制定住化により、山を追われ平地へと移された。ホイプム村の住民は、定住化のチャンス逸し山にとり残された。子どもの教育やタイ社会との共存により現金収入が必要となった。7年前から「GMO トウモロコシ」の種子が急速に出回り化学肥料・農薬とセット販売が始まり、ホイプム村も商業ベースの流れに沿った流通農法に変更せざるを得なくなった。ホイプム村を含む北タイ山間部では農地拡張のため、こぞって森林を伐採したため一面トウモロコシ畑に化し、の早さは年々拡大を見せ、森林は、急速に消滅し水源を失うとともに下流では、洪水災害が頻繁に発生している。このため多くの住民が直接の被害や環境悪化などの影響を受け、生活に支障を来している。

### ○助成活動の必要性・妥当性

この地で生き残るためには、農業のあり方を変えざるを得ない事態に迫られ、この機を逸せば、村の壊滅も心配され、資本家による土地の買収や、違法な森林伐採は、エスカレートし、更なる森林の消滅が懸念されると共に、今後の人々の暮らしに多大なダメージを与え、広範囲にわたる多くの住民が生活に支障を来す。村民の総意は、親から引き継いだ伝統の土地を生かし、従来の節約と民族の伝統文化と共に持続可能で完全自立できる農業を続けていきたい。このため GMO トウモロコシ栽培から果樹栽培に転換することを決意した。達成には長期の年月（初年度の収穫による収入の確保まで 8 年）と住民の団結や意識改革、知識の取得、一時的な収入減等の多くの課題がはだかっていることから転換に向けての農村開発の継続と、これまでの実践により準備してきた基本計画を目標に、環境保全型農業の推進と生活向上のための支援活動を実施する。